

- 主題名 結婚差別のない社会を目指して
- 教材名 結婚差別を考えよう ～ある二人の結婚について～ <2時間扱い>
- 人権学習の視点 個別的な視点「同和問題」
- 主題・教材について

京都府では同和問題について、昭和44（1969）年の「同和对策事業特別措置法」の施行以来、国や市町村と連携を図る中で、地域改善対策や同和地区出身者に対する差別や偏見の解消に向けて、人権教育・啓発を進めてきた。しかし、府民調査では結婚に関わる問題や住宅購入にあたっての同和地区への忌避（きひ）意識などが依然として存在していることがうかがわれ、こうした心理面での課題が、戸籍謄本等不正取得事件や土地調査問題、インターネットを利用した悪質な書き込みなどで顕在化しているものと考えられる。

本教材では、結婚差別を通して、差別や偏見に基づく言動は他人の人格や尊厳を深く傷つけ、幸福追求を根底から阻む決して許されないものであることを認識させたい。さらにいわゆる「部落差別解消法」の目的や基本理念を踏まえ、この課題を自分事として捉えさせ、自分たちが差別や偏見のない社会の実現に向けての担い手であることを自覚させたい。

### ●ねらい

差別の不合理性を認識させ、偏見や差別のない社会の実現に向けて自分自身がどう生きていくかを考えさせることで、差別を見抜く力や差別を許さない心、差別に立ち向かう人権意識を身に付けさせる。

### ●関連する教材

- 人権学習資料集〈中学校編〉「11 花—文字を識ること—」（第2学年用）
- 人権学習資料集〈中学校編〉「12 我が子へ」（第3学年用）
- 人権学習資料集〈高等学校編〉「7 差別と向き合い、乗り越えるために～結婚差別を考える～」

### ●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
	○結婚とはどういうものかを考えさせる。	一斉	○結婚についての自分の考えを発表する。	○あくまでも、中学生なりのイメージとして発表させる。	
<b>「結婚を妨げるもの」について考えてみよう。</b>					
導入	○本時の学習課題を知らせ、結婚を妨げるものについて考えさせる。	一斉 個別グループ	○本時の学習課題を知る。  ○結婚について、反対されるかもしれない事項を考え、グループで交流し、発表し合う。	○本時は「結婚を反対される」事例を通して学ぶ人権学習であることを知らせる。  ○はじめは個別で自由に考えさせる。グループ交流は、意見の違いや共感できることはあるかを意識させてから行う。  ○交流の後、発表させるが短時間の活動でおさめる。	

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展 開	○結婚を妨げるものについて深く考えさせる。	個別	○ワークシートの〔1〕について、自分の考えを記入する。 ①結婚を反対される理由として、「納得できない」と思う項目 ②①で選んだ中でも「特におかしい」と思う項目	○本資料集「2 偏見って何? (差別の構造)」の教材を使った人権学習の内容を思い出させ、学習したことを活かすように助言する。  ○ワークシートの【項目】の中で、人権問題につながる可能性が高いものを把握させる。	ワークシート
		個別	○ワークシートの〔2〕について、自分の考えを記入する。 →指導者の指示により2つの項目の比較を行い、それらの違いや共通点を考える。	○〔2〕では項目の(オ:相手の出身地)に着目して他との比較をさせ、この後の学習の重点となる「出身地による差別の不合理性」に視点を置かせる。(指導者用資料参照)  ○結婚や就職のときに、相手の本籍や出身地、家族のことを調べる「身元調査」が行われることがあることに軽く触れ、そのようなことを行ったり、それに応じたりすることは、差別や人権侵害の原因にもなることを押さえる。	
		グループ	○グループで交流し、発表し合う。	○授業の時間設定に応じて、〔1〕の②及び〔2〕について、グループ交流や発表をさせ、考えを深めさせる。	
<b>「ある二人の結婚」について考えてみよう。</b>					
	○スライド「ある二人の結婚について」 <b>場面1</b> までを視聴させ、事例にある偏見や差別を考えさせる。	一斉	○指導者の提示により、スライドを視聴する。 →当事者の二人やサクラの両親それぞれの気持ちを考える。 →会話の中で偏見や差別と考えられる箇所には、資料プリントに下線を引く。	○視聴前に「登場人物の気持ち」を考え、「会話の中で偏見や差別と考えられる箇所」には下線を引きながら見るように指示をする。  ○二人の結婚をめぐる事態の経緯がきちんと把握されるよう留意して説明しながら、スライドを見せる。	スライド資料「ある二人の結婚について」(スライドを印刷して配布する。)
グループ		○個別に感じたこと、気付いたことをグループで交流し、発表し合う。	○各自が下線を引いた箇所を確認し合わせる。特に身元調査前後のサクラの両親の言動に着目させ、科学的な根拠や正当性があるか考えさせる。		

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	場面1 「差別に立ち向かう支援」について、考えさせる。	個別	○ワークシートの〔3〕について、自分の考えを記入する。 →自分が友人として相談を受けたならば、どのように二人を支え、二人にどんなアドバイスをするか。	○差別や偏見に立ち向かう姿勢を促す。また、解決方法ではなく、二人を支援する視点で考えさせる。	ワークシート
	○スライドの場面2までを視聴させ、事例と同和問題の関わり、差別の非正当性について理解させる。	グループ 一斉	○グループで交流し、発表し合う。 ○指導者の提示により、スライドを視聴する。 →友人(ユウマ)の説明から同和問題とその原因となる差別意識について理解する。 →友人の支えを受けて、サクラの両親に会った二人の思いを考える。	○二人から相談を受けた友人(ユウマ)の話の内容が理解しやすくなるように解説しながら、スライドを見せる。 ○「幸せになりたい」「理解してもらいたい」という二つの気持ちで、自分たちの思いを伝えて結婚を認めてもらえるように、サクラの両親を説得する二人の熱意を感じさせる。	スライド資料
	場面2の結末を示し、まとめの課題提示をして、考えさせる。	グループ	○この二人が幸せな結婚をするために、自分がその立場ならどんなことを考え、どのように行動するか、考えて話し合う。	○場面2(結末スライド)については、展開①と展開②の2パターンがあり、各学校で校区の状況や生徒実態を考慮し、ねらいに向けて学びが深まる学習過程を協議した上で設定する。	
まとめ	○本時の学習を振り返らせる。	一斉	○指導者のまとめの話を聞く。	○生まれ育った場所によって、人生が左右されることは絶対にあってはいけないことで、正しい理解と認識によって判断しなければならないことを押さえる。 ○同和問題についての差別や差別意識の解消は確実に前進しており、スライドのような事例においても結婚に至る割合が多くなっていることを伝え、差別解消への展望をもたせて締めくくる。	指導者用資料のグラフを参照
		個別	○本時の学習を振り返り、気づいたことや学んだことをワークシートに記入する。		ワークシート

## ●評価

差別の不合理さを認識し、偏見や差別のない社会の実現に向けて自分自身がどう生きていくかを考えることを通して、差別を見抜く力や差別を許さない心によって、差別に立ち向かおうとしているか。